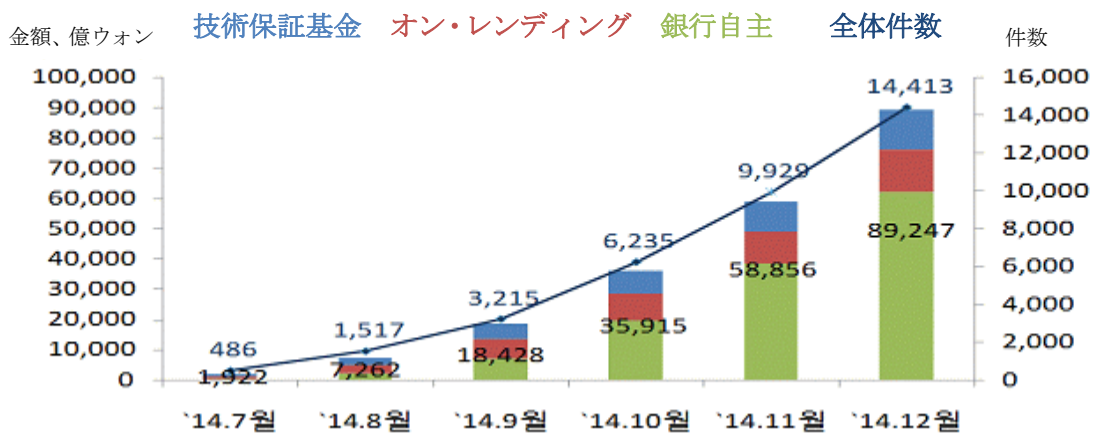


1 2014年度の技術信用評価基盤の貸出実績

□(総量)技術信用評価(TCB)基盤の貸出は、施行初期段階に該当する2014年7月～8月の業務習得期間を経て9月から本格的に取り扱ってから、毎月増加傾向を見せている*。

※(10月)3,020件、1.7兆ウォン、(11月)3,694件、2.3兆ウォン、(12月)4,484件、3.0兆ウォン

2014年度末のTCB貸出件数および金額(暫定)



□(貸出類型別)最近、銀行自主の貸出が急増(10月中1,895件、1.3兆ウォン→12月中3,099件、2.3兆ウォン)し、技術信用貸出の規模拡大をけん引した。

※件数 14,413件：銀行自主 8,457(59%)、技術保証基金 4,872(34%)、オン・レンディング 1,084(7%)

金額 89,247億ウォン：銀行自主 62,000(69%)、オン・レンディング 14,039(16%)、技術保証基金 13,208(15%)

○銀行自主貸出は初期段階で低迷していたが、10月以降に急増。2014年度の支援件数の59%、金額の69%を占めた。

○技術保証基金の貸出は2014年度の支援件数の34%、金額の15%を占め、9月以降は毎月の実績が900件、2,500億ウォン前後と、安定した動きを見せている。

○オン・レンディング貸出は2014年度の支援件数の7%、金額の16%を占め、第3四半期(7月～9月)中に基準金利50bpの引き下げなどを受けて、9月以降は実績が減少を見せている。

※実績値(1,084件、1.4兆ウォン)は、当初の見通し(1,800件、2.3兆ウォン)の60%

水準 → 9～11 月中にオン・レンディングの金利引き下げ(施設・運転資金それぞれ 35、45bp)で執行を促している。

2 実質的な効果の分析

◆技術信用評価基盤の貸出によって一般中小企業に対する貸出比 1 件当たりの平均貸出金額が 3.8 億ウォン増加し、貸出金利は 0.38%p 下落した。

※2014.7～11 月中に取り扱った技術信用評価基盤の貸出と一般中小企業の貸出の比較時

1 (業種別)2014 年度末の技術信用評価件数のうち、製造業(72%)、IT など技術サービス業(13%)、建設・インフラ事業(5%)など、財貨・サービス生産において通常的に技術を伴う業種が 91%を占めている。

○その他業種 9%(卸・小売業 6%、農林漁業・鉱業などその他 3%)にも各業種をリードする企業の場合、技術評価が必要※

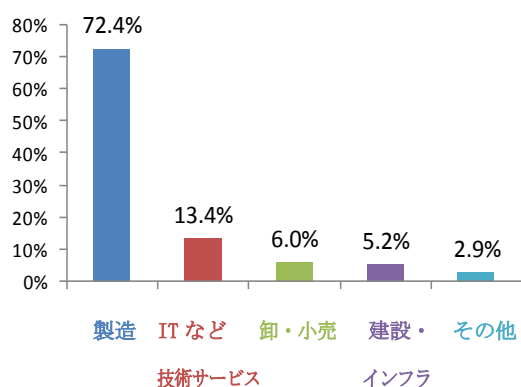
※(例) ■卸・小売業:産業財を流通する電子商取引システムおよび運営(関連特許保有)

■農業:組織培養による植物の大量繁殖方法の開発

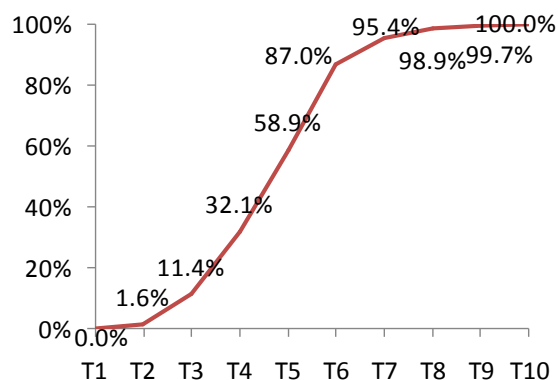
2 (技術等級別)2014 年度末の技術信用評価件数において技術等級 10 段階(T1～T10)のうち、上位 6 段階の普通等級以上(T1～T6)が 87%を占めている。

○不十分等級(T7～T10)の 13%は、技術力は低いものの財務余力などその他情報を踏まえて銀行が貸出適格と評価した場合などに該当する。

業種別の分布



技術等級の分布(上位累積)



③(貸出の性質別)2014年度末の技術信用評価基盤の貸出件数のうち、①信用貸出が80%(純粹信用30%、部分信用50%)、②創業企業貸出が50%、③新規取引企業の貸出が35%で、担保余力が足りない企業に対する金融支援が増加した。

※工場など不動産を担保とした貸出は、少数の巨額与信によって行われるため、企業の実質的な優遇策に対する政策的効果は、金額より件数をもって評価することが合理的

○また、非信用貸出の場合にも i)担保割合の引き下げ、ii)貸出金利の引き下げ、iii)無形資産の担保認定などの効果があるものと判断される。

i)追加の担保余力がなくても技術信用評価の結果が優秀な企業に対して担保の割合を引き下げ、当該借額を信用貸出として支援することで企業の資金負担を緩和することができる。

ii)担保・保証貸出も借主の利子償還力によって貸出金利*が決められるため、技術信用評価によって信用リスクが低減するとき、金利も引き下げられる。

※貸出金利の構成=①基準金利+②信用リスク+③加算金利(営業利益)

iii)知的財産権(IP)など無形の技術力を質権に設定する「IP担保貸出」は、その性質上信用貸出と類似している。

3 2015年度の見通しおよび計画

□(見通し)2015年には、2014年下半期の実績(年換算で2.9万件、17.8兆ウォン)比約10%増加した3万2,100件、20兆ウォンの水準を新規供給する見通し(暫定)

<技術信用貸出の2014年度の実績および2015年度の見通し(暫定)>

単位：件 (兆ウォン)	技術保証基金	オン・レンディング	銀行自主	合計
'14年下の実績	4,872(1.3)	1,084(1.4)	8,457(6.2)	14,413(8.9)
'15年の見通し	9,000(3.5)	2,300(3.0)	20,800(13.5)	32,100(20.0)

□(点検・管理計画)技術信用評価によって財務余力が足りなくても、技術力が優秀な創業企業などに対する信用貸出が拡大されるよう、持続的に推進する。

○TCB 評価の結果および貸出不良率などの情報を TDB に集積することで、技術信用評価の品質と信頼度を向上させる。

○TECH*評価に量的・質的指標を公平に反映して、技術金融の総量を拡大する過程において、運営上の充実化を図るよう誘導する。

※ TECH：技術金融の規模 (Technology Financing)、技術事業化の支援 (Entrepreneurship)、信用支援 (Credit Financing)、支援の力量 (Human Resources)

- 量的指標である供給規模 (T:合計 40 点の 40%)、質的指標である企業・信用支援 (E-C: 35%)、定性評価の指標である支援力量 (H:25%) を万遍なく反映する。

- 評価結果が優秀な銀行に対しては、信用保証基金・技術保証基金による出損金、産業銀行によるオン・レンディング貸出など、政策金融を支援する際に多くのインセンティブを提供する予定だ。